

## 1. 診療科紹介（専攻医・後期研修医向け）

項目	内容				
① 診療科名	救急集中治療科				
② 診療科の特徴	<p>名古屋医療センターは救命救急センターを有し名古屋市中心部の3次救急医療機関としての役割を担っております。当救急集中治療科の医師は救急外来(ER)および救命救急センター専従であり、救急および集中治療を主業務としております。</p> <p>ERでは救急専従医が在籍し、救急車に限らずタクシーや自家用車で来院された方でも症状や傷病の程度に関わらず受け入れております。ERに受診された全ての患者さんに対して重症度の判断、診断、初期治療を行い、入院必要性の判断や適切な専門科への紹介を行うなど、今後の専門的な診療に向けて最適な道筋を提供します。集中治療室(ICU)も当科の管理下にあり、重症かつ緊急性のある患者はスムーズにICUでの治療につながることができます。また、旅行者や外国人、高齢者の受診が多く、社会的に特別な配慮が必要な患者にも対応できるよう、地域連携室やソーシャルワーカーとも連携しています。</p> <p>ICUには集中治療専門医が在籍し、ERからの重症患者をはじめ、緊急手術などの術後患者管理、院内での急変患者などを受け入れております。重症多発外傷や特殊中毒、ショックなどの重症な患者や複数科での管理が必要な患者が主体となって診療にあたります。早期離床のためのリハビリテーションを積極的に行い、重症患者の社会復帰率を上げ、入院期間を短縮することにつなげています。他の多くの医師にとって救命困難な症例を救命に結び付けることを目指します。</p>				
③ 診療科のモットー	安全かつシステムティックな形での救急医療および集中治療体制を提供すること				
④ 診療内容・実績		2020年	2021年	2022年	2023年
	救急外来受診件数	13331件	12286件	13670件	13678件
	救急車搬入件数	8998件	7771件	9370件	9874件
	CPA 搬入件数	406件	452件	499件	512件
	救命救急センター (ICU、HCU) 入室件数 (院内転床含む)	5046件	4271件	5204件	6104件
⑤ 診療体制 (2024年7月時点)	日本救急医学会救急科専門医4名、日本集中治療医学会集中治療専門医3名(常勤2名、非常勤1名)、日本内科学会総合内科専門医1名				
⑥ 診療科カンファレンス	毎朝症例検討会、毎週水曜日に定期カンファレンス開催				
⑦ 経験できる病態	<p>各種急性疾病(中枢神経・呼吸器系・消化器系・泌尿器生殖器系・筋肉骨支持組織・代謝内分泌系・血液系・免疫系・重症感染症)</p> <p>外傷(頭部・脊椎脊髄・顔面頸部・胸部・腹部・骨盤・四肢・多発外傷) 熱傷 急性中毒 その他の外因性の救急病態</p>				
⑧ 経験できる技術・ 技能	心肺蘇生法、気管挿管、除細動(電気ショック)、胸腔ドレーン挿入、胃洗浄、創傷処置、骨折整復固定、中心静脈カテーテル挿入、動脈穿刺と血液ガス分析、観血的動脈圧モニター、腰椎穿刺、機械的人工呼吸管理、超音波検査、気管支鏡、その他(気管切開等の外科的気道確保、血液浄化、IVR、開胸心マッサージ等)				
⑨ 学会について	日本救急医学会、日本集中治療医学会等				
⑩ その他	・診療は ERグループと救命センターグループに分かれ行っています。病棟業務は主に				

	<p>救命センターグループが行っております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休日夜間は当番制を敷いており、勤務および勤務外の On-off が明瞭です。          休日当番日 2 から 4 回程度/ 月          当直 3 から 4 回程度/ 月</li> <li>・休日の院内各種講習会の講師参加については勤務扱いです。</li> <li>・当直明けは勤務なしも可能です(要相談)。</li> <li>・Off the job training として院内外で行われる AHA BLS/ACLS,ICLS,JATEC,FCCS 等のコースに受講生あるいは指導者として参加していく機会を設けます。</li> <li>・日本救急医学会・日本集中治療医学会等の学術集会への参加を促し、経験症例を元にした定期的な学会発表・論文発表のサポートをいたします。</li> </ul> <p>研修の状況にもよりますが、最短で卒後 6 年目での救急科専門医取得が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠、出産前後の勤務など相談に応じて柔軟に対応いたします</li> </ul>
--	---

**2. 専門研修プログラムに準拠しない形での採用の場合**

研修プランおよび専門医取得に関しては各自の相談に応じます。

**3. 専門研修プログラムで採用の場合**

項 目	内 容
① 基幹施設	<p>当院救急集中治療科は日本専門医機構の救急科専門医プログラムの基幹施設にて各関連施設と連携中です。</p>

施設名	基幹/連携
独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター <span style="color: red;">施設のHP</span>	基幹
公益社団法人地域医療振興協会 東京ベイ・浦安市川医療センター	連携
大垣市民病院	連携
独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院	連携
藤田医科大学岡崎医療センター	連携
公立陶生病院	連携
あいち小児保健医療総合センター	連携
藤田医科大学病院	連携
名古屋大学医学部附属病院	連携
医療法人社団洛和会 洛和会丸太町病院	連携
公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	連携

#### 4. 指導責任者より専攻医・後期研修医へメッセージ

患者を救いたい。医学を志した人は全員、一度は思ったことだと思います。我々救急医は、昨日まで元気だったのに、今まさに生死の淵を彷徨っている人を此岸へ引き戻すことも大事な仕事です。軽症そうだとしても私達を頼ってくれるなら、病気なんじゃないかと受診する患者の不安や心配する家族の思いも、「専門じゃないので」とは切り捨てずに出来る限り救いにいきます。中には勝てない戦もありますが、死に瀕していた人が退院していく姿は何にも代え難い感動と喜びです。誰かにとって大切な人を救う、という医学の本質を実現できる救急領域で、私達と一緒にこの感動を共有していきませんか。



人工呼吸器の離脱に向かう集中治療科医師、研修医、診療看護師、看護師（集中治療室の風景）



集中治療室患者についての多職種での合同カンファレンスも定期的を開催しております。